

冷害危険期の用水温度作況

	水系	地域	冷害危険期 用水温度	不稔歩合	作況指数
平成4年	石狩川	深川	17.5	19.9%	92
障害型	空知川	美唄	21.0	9.8 %	98
	夕張川	長沼	18.1	11.0 %	91
	石狩川	深川	17.4	29.7 %	71
障害遅延型	空知川	美唄	19.4	14.3 %	51
	夕張川	長沼	17.0	36.0 %	26
	石狩川	深川	20.5	14.0 %	111
平成6年	石狩川	深川	20.5	14.0 %	111
大豊作	空知川	美唄	20.8	6.3 %	101
	夕張川	長沼	20.5	14.0 %	111

近年の冷害凶作の事例では、平成4年の冷害に続き、『平成の大冷害』と称される平成5年冷害があり、この対極に平成6年の大豊作があります。

平成4年、5年は、冷害危険期の用水温と当該用水を主に使用している市町村の作況をみると、平均用水温が17～18 の場合に不稔歩合が高まり、作況が悪化しているのがわかります。

一方、平成6年のような高温年では20 を超えている場合は、不稔歩合は低く、豊作となっています。もちろん、不稔発生は用水温が直接原因となるのではなく、この用水温をベースに水田水温が形成され、用水からの取水方法や幼穂に直接接する水田の水深管理の巧拙が個々の水田の不稔発生を支配するのです。